

各市町村の取り組み

山形市の取組状況

市民の迅速かつ適切な避難に役立ててもらえるよう、対象世帯への防災ラジオの配付及びハザードマップの周知を行いました。
また、浸水被害を軽減するため、排水ポンプ車の配備を行いました。

1 防災ラジオの配付について

携帯電話を持たない人に対して迅速に緊急情報を伝達するため、緊急時にFM放送から自動起動により緊急情報を放送する防災ラジオを配備し、市民への情報一斉伝達手段の更なる充実を図りました。

【配付先】 平成28年度 融雪型火山泥流避難区域、平成29年度 土砂災害警戒区域、平成30年度 浸水想定区域、令和元年度 馬見ヶ崎川、須川、村山高瀬川流域、令和2年度 立谷川流域、令和3年度 犬川、恥川流域



2 ハザードマップの説明会について

山形市洪水ハザードマップ普及促進パネル展を開催しました。
また、出前講座や視覚障がい者向けの説明会を実施し周知を行いました。

3 排水ポンプ車の配備について

近年多発する大雨などによる浸水被害を軽減するため、30m³/minの排水能力を持つ排水ポンプ車を配備し、令和4年度より運用を開始しました。



山形市の取組状況

須川沿川において令和元年と令和2年に連続で浸水被害が発生したことから、被害を軽減するため、排水ポンプ車（30m³/min級）を配備しました。

1 排水ポンプ車の配備について



導入経緯

令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨と2年続けて大雨による被害に見舞われ、須川沿川では内水による浸水被害が多数発生しました。今後も降雨量の増大や水害の増加傾向は続く予想されていることから排水ポンプ車を導入し、被害の軽減と復旧体制の強化を図りました。

運用

- ・排水ポンプ車の運転維持管理を、市内の業者に委託をしております。
- ・災害時に迅速な対応ができるよう、泉川排水樋門において、7月1日に市職員と受託業者及び樋門操作員で排水訓練を実施しました。



現在、内水解析の結果をもとに水害対策を検討しています。

米沢市 避難所開設訓練

避難所開設訓練を開催しました。

1. 開催日時・対象

- ・令和3年度において5回開催
- ・対 象 各地区の自主防災組織、市職員
(広幡地区、愛宕地区、窪田地区、上郷地区、三沢地区)

2. 避難所開設訓練について

- ・災害が発生した場合を想定し、避難所担当となっている市職員と各地区の自主防災組織が共同して避難所を開設する訓練を行う。
- ・訓練内容
 1. 避難者受付及び避難者名簿の作成
 2. 電話の不通を想定し、防災無線を利用した市への行方不明者の救助要請
 3. ダンボールベット及びパーティションの設置訓練
 4. コロナ対策による検温、手指消毒
- ・実際に避難所を開設することで、防災資機材の配置場所や種類、数量、使用方法を確認することが出来た。

3. 状況写真

避難所開設訓練の様子



令和4年度 鶴岡市自主防災組織指導者講習会

町内会・住民会等単位の自主防災組織指導者を育成するとともに、組織の強化を図るための講習会を実施(年4回)。6/18に一回目の講習会を実施しました。

1. 開催日時・対象

- ・令和4年6月18日(土) 9:30~12:30
- ・受講対象 地域(町内会・住民会等)において、防災活動やコミュニティ活動のリーダーもしくはサブリーダー的立場にある者。

2. 講習会について

・鶴岡市の素因から紐解き、当市で起こりうる災害リスクを学習。その災害リスクから地域の防災を考え、災害への備え~避難所運営までを講義いただいた。

(山形大学講師)

・避難所の開設・運営と、災害時避難行動要支援者個別計画について、担当市職員より説明。自主防災組織に協力を仰いだ。

3. 状況写真

講習会の様子



鶴岡市水害危険箇所現地視察

起こりうる水害に対し、迅速かつ的確に業務を遂行できるよう、新任職員を対象に、過去に水害のあった箇所の現地視察を実施。

1. 開催日時・対象

- ・令和4年4月25日(月) 13:00~17:00
- ・参加者 新任の防災担当職員
土木担当職員
雨水担当職員

2. 現地視察について

- ・過去に内水被害や外水被害のあった箇所に行き、被害時の写真と見比べ、周囲の河川や水路との因果関係を学ぶ。
- ・水害に対するハード面での対策をしている箇所も併せて視察し、担当職員から説明をもらい、水害についての理解を含める。

3. 状況写真



水位監視システムの導入について

～排水施設維持管理事業及び排水施設改修事業～

1 現状と課題

- 現在、大雨の際の道路冠水被害は、市民による通報又は市職員の巡視によって把握している。
- 通報や巡視では、道路冠水の発生から市民への情報提供までに時間を要することから、市民の逃げ遅れや自動車等の浸水被害が生じている。
- 特に、近年増加している短時間での豪雨では、事前に市職員を巡視させることが難しく、市民への情報提供が遅れている。



道路の冠水状況をリアルタイムで把握し、今よりも早い段階で市民への情報提供を行うことで、自動車等の浸水被害や市民の逃げ遅れの無い地域を実現したい。

2 事業内容

(1) 浸水センサ

- 大雨の際に冠水頻度の高い豊里、泉町、東泉町、富士見町一丁目、富士見町二丁目、若浜町、未広町、東栄町、東中の口町、亀ヶ崎三丁目、亀ヶ崎四丁目、千石町、錦町の計13か所に浸水センサを設置する。
- 一定の浸水を観測した場合、取り付けられた無線通信機を通じて自動的に酒田市職員及び市民にメールで通知を行う。(令和4年度は市職員までの通知、現場実証を経て令和5年度以降に市民へ通知予定)

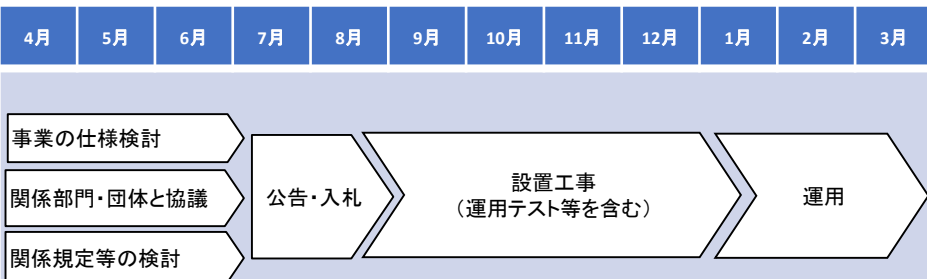
(2) 危機管理水位計

- 大雨の際に越水の恐れのある泉町地内排水路、家際排水路、礼谷地排水路、本溝排水路、鶏川排水路、広野排水路の計6か所に危機管理型水位計を設置する。
- 取り付けられた無線通信機を通じてリアルタイムで排水路の水位データをインターネット(危機管理型水位計運用システム)で公開する。



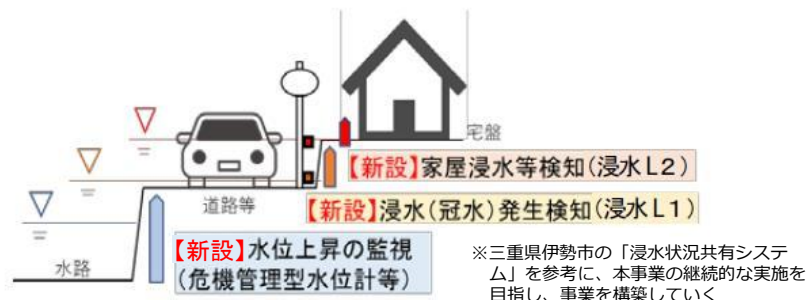
浸水センサ及び危機管理型水位計のリアルタイムデータを活用して市は、道路冠水が生じる前に避難情報を発信する。また、市民もメール及びインターネットから情報取得が可能となる。

～令和4年度事業スケジュール(予定)～



危機管理型水位計

浸水センサ



◀引用元▶中部地方整備局 三重河川国道事務所調査課:「簡易型浸水センサ等を用いた浸水状況共有システムの現場実証」.https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/2021kannai/pdf/re10.pdf



◀引用元▶(一財)河川情報センターホームページ: http://www.river.or.jp/riverwaterlevels/img/pamphlet.pdf

新庄市 令和4年度防災関連主要事業

1.可搬式排水ポンプ整備事業(事業費4,184,000円)

- 本合海地区をはじめとする内水氾濫に対応するため、排水能力2.5立方メートル／分の可搬式ポンプ2台を整備予定

2.主防災組織育成補助事業(事業費2,500,000円)

- 自主防災組織の育成と活動支援のため、助成金を交付(新規20万円、2回目以降事業費の1/2か5万円のいずれか少ない額)

3.新庄市総合防災訓練

- 期日 R4.10.16 会場 升形小学校 内容 土砂災害を含む各種訓練

寒河江市の減災に係る取り組み

- 市職員を対象にした指定避難所開設訓練を開催した。

開催日時及び会場、参加者数、実施内容等

開催日 令和4年6月6日(月)、7日(火)

参加者数 98名(市職員のみ)

実施内容 避難所の開設から24時間の初動期の業務を想定した開設訓練を行った。

◇避難所の開設について説明

◇受付手順の確認、模擬訓練

◇屋内テント、段ボールベッド設営

◇防災備蓄倉庫の見学、備蓄品の説明



実施結果

受付の混雑、混乱が想定されるため施設管理者との連携や健康状態のチェック、避難者カード記入等の流れを実践し、いざという時の心構えと運営についての理解を深めた。

寒河江市の減災に係る取り組み

- 防災マップを作成して全戸配布した。（従来の防災マップとハザードマップを合体）

内容

- ◇ 災害学習を目的とした内容とし、避難所一覧・ライフライン等連絡先、避難行動ガイド、警戒レベル、地震・風水害対策、土砂災害・洪水情報、非常時持出品の準備チェック、防災情報入手方法、わが家の個別避難計画記入欄等を掲載した。
- ◇ 主な変更点
 - ・寒河江川と沼川の浸水想定区域を追加
 - ・福祉避難所一覧を追加し、マップ上に記載
 - ・防災情報の入手方法、5段階警戒レベル、避難行動判定フローを追加



- マイタイムライン作成研修会を実施した。

実施内容

- (1) 開催日 令和3年5月31日(月)
- (2) 実施内容 南部地区町会役員等を対象として、マイタイムライン作成研修会を実施した。作成キットを使用し、台風接近による大雨の影響により、最上川氾濫の恐れがある場合を想定した。

寒河江市の減災に係る取り組み

- 洪水に備えて水防工法訓練を実施した。

開催日時及び会場、参加者数、実施内容等

開催日 令和4年5月22日(日)
参加者数 約100名(市消防団水防隊)
実施内容 洪水警報の発表により、消防団水防隊が各河川の
巡視中、寒河江川において越水の危険箇所を発見
した想定で水防工法訓練を実施した。

◇消防署員による訓練指導

- ・土のう作り
- ・改良積土のう工法
- ・防水シート工法

実施結果

土のうに水が入るのを防ぐ為に結び口を下流側に向けて土のうを積む点に留意するなど、水防隊員は、真剣に消防署員の指導を聞いて技術を学んだ。訓練を継続的に実施し、速やかな水防活動に繋げていく。



上山市 減災に関わる取り組み

- 避難所勤務職員に対し、令和2年度から毎年、避難所の開設・運営訓練を行い災害時等における迅速かつ円滑な避難所の開設・運営能力の向上を図った。

1 開催日時・会場・参加者

- 令和4年5月24日(火) 午後2時～午後3時30分
- 上山市役所 大会議室
- 避難所担当職員 約70名

2 訓練内容

- 避難所開設訓練
- 避難所運営訓練
- 避難所開設資材の取扱い
 - ・段ボールベッド及びパーティションの組み立て
 - ・簡易テントの設置
 - ・タブレットの使用法
(本部と避難所の連絡手段として、令和3年度導入)

3 訓練成果

- 避難所の開設から運営までの一連の流れを確認するとともに、その能力を向上
- 避難所開設資材の取扱能力の向上

4. 訓練写真



訓練全般説明



検温から健康チェック



簡易テントの設置



タブレットの使用法

5 更なる円滑な避難所開設のために

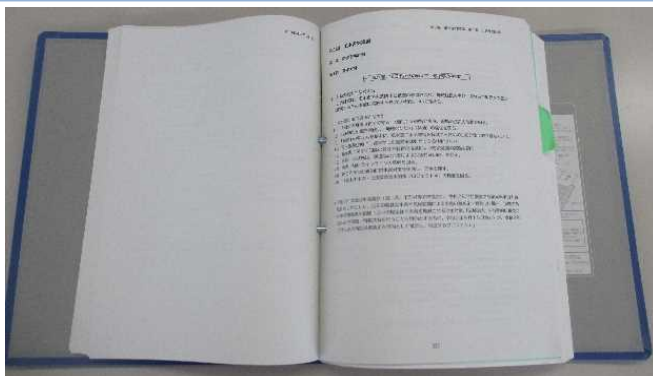
- 現場確認が必要(担当する避難所)
- 公民館(事務長等)との意見交換(役割分担等)

村山市の減災に係る取組み

1. 実施内容

- 村山市地域防災計画の改定（令和3年度取組み、令和4年5月改定）
 - ・風水害対策編の基本方針に「最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクトの推進」を明記
- 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の推進
 - ・地域防災計画に記載の要配慮者利用施設について、令和3年度中に作成するよう働きかけ、全ての施設において作成済となる。地域防災計画の令和4年5月改定に伴い、新たに作成が必要となる15施設については、令和4年度中の作成を目指す。
- マイ・タイムラインの普及・促進
 - ・令和2年10月から配置した防災専門員から、「わたしの防災対策マイ・タイムラインを作ってみよう」と題し、出前講座を開催。令和3年度、4回開催し66人受講する。

2. 状況写真



地域防災計画の改定



出前講座の様子

長井市 緊急情報システム機能の強化

新庁舎災害対策室に防災情報システムを整備しました。

1. 契約状況について

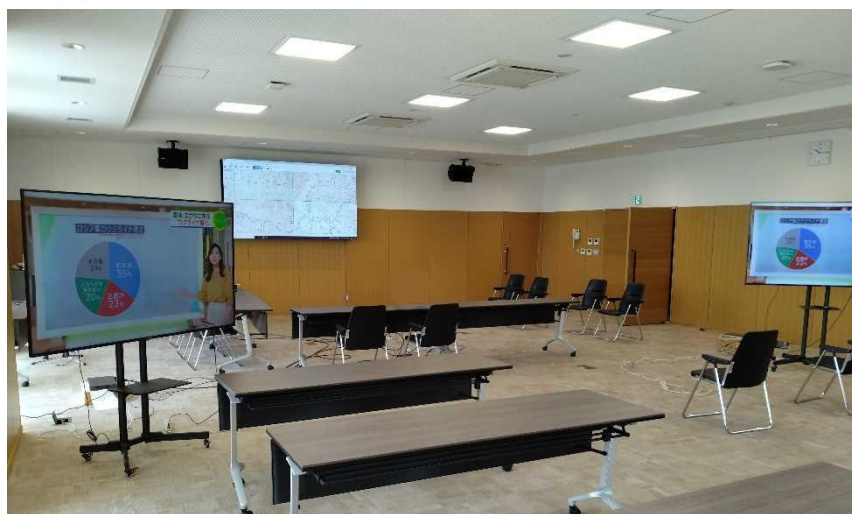
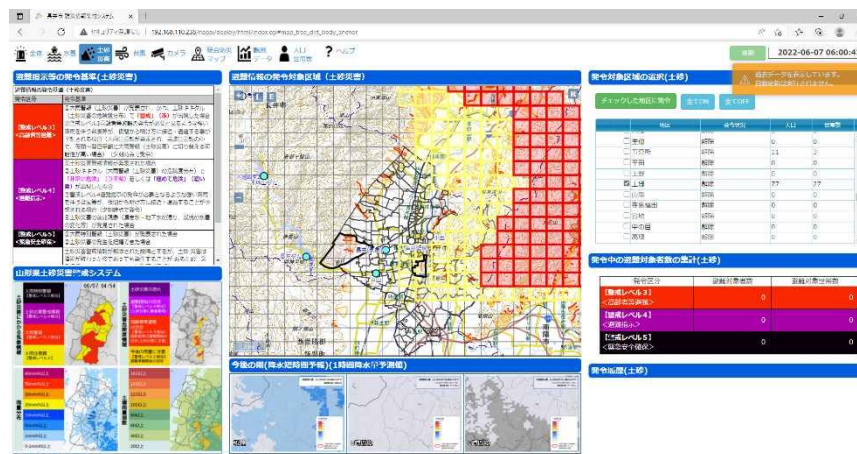
- ・工事名 防災情報・映像・音響システム整備工事
- ・契約年月日 令和3年8月26日
- ・工期 令和3年8月30日から
令和4年3月15日まで
- ・契約金額 46,200,000円

2. システム概要について

- ・国(気象庁)や県がオンライン上で公開している気象情報や防災情報を自動収集・集約するシステム。
- ・導入により、災害に備えた迅速な判断が可能となり、さらに市民への防災情報をワンオペレーションで伝達可能となった。(屋外拡声装置・防災ラジオ・エリアメール等)
- ・メインディスプレイ 55インチ×4画面
- ・電子黒板 65インチ
- ・ワイヤレスマイク 4本 ほか

3. 状況写真

システムの状況



長井市庁舎 豪雨被害の軽減措置

新庁舎の駐車場内に雨水貯水槽を設置し、幹線水路の氾濫を抑制しています。

1. 概要

新庁舎付近を流れる準用河川砂押川は、豪雨時に氾濫する可能性が高く、駐車場の雨水処理が大きな課題であった。



氾濫する砂押川



砂押川(現在)

【改善策】

雨水の排水計画を検討(外構設計時)

↳ 一時的に駐車場地下に貯水し、排水する



貯水槽概要写真

2. 工事状況 (R2.5.18~R2.10.30, 73,300千円)



貯留材の設置状況



貯水槽の完成



埋戻し状況



排水樹の内部

3. 仕様

- ・貯水量 883.2m³
- ・駐車場面積 5,160m²
- ・排水ポンプ 100A 3.7KW(フロートスイッチにて運転)
(吐出量: 1.9m³/min)

水害時の避難に関する取り組み(天童市)

水害時の避難に関する取り組みとして、緊急指定避難場所及び指定避難所となる施設等への案内表示板の設置と防災ラジオの無償貸与を実施しています。

案内表示板設置

天童市内で緊急指定避難場所及び指定避難所となっている施設等に、案内表示板を設置。令和3年度は、緊急指定避難場所となる公園施設4か所に案内表示板設置工事を行っており、令和4年度には公園施設5か所に案内表示板の設置を予定しています。

案内表示板写真



防災ラジオの無償貸与

天童市内に住所を有しており、避難行動要支援者に該当する方、または0.5m以上の浸水想定区域内や土砂災害警戒区域にお住まいの方を対象とし、防災ラジオ受信機の無償貸与を行っています。また、公共施設や自主防災会等への無償貸与を行っており、支援する側の関係者への情報収集の多様化を図っています。

防災ラジオ受信機



東根市 『地区防災計画』策定に向けた講習会の実施

マイタイムラインを含む『地区防災計画』の策定に向け、国交省の職員を招き、自主防災会が講習会を開催。

1. 開催日時・対象

- ・令和3年11月7日(日) 会場:大堀集落センター
- ・対 象 ……東根市大堀地区自主防災会 約30名

2. 講習会について

①『地区防災計画』作成に向け、当市防災専門員より避難に際しての留意点、避難時における自主防災会の役割等の説明。

②国土交通省山形河川国道事務所より講師を招き、最近の豪雨被害の状況、堤防の機能や豪雨等に対する能力、マイタイムラインの作成についての説明。

⇒講習会実施後…

令和4年3月に『大堀地区防災計画(案)』策定完了。
さらなる避難体制等の強化を図った。

3. 状況写真



地区防災計画策定に向けた講話の様子



山形河川国道事務所を招いた講話の様子



講習会后、防災会の成果として策定された『地区防災計画』

3. 地区防災タイムライン

■大堀自主防災会タイムライン(更新計画)

警戒レベル	対応の要否	東根市からの要請	大堀自主防災会	市は非難
5	大雨特別警戒 河川水位情報	緊急安全確保 【発生/発生しやすき時】 ○避難先の確保 ○避難経路の確保	命を守るための最善の行動をとる 避難完了 ○避難先の確保 ○避難経路の確保	
4	河川危険情報	避難指示の発令 【緊急/おそれ多い】 ○緊急避難メール発令 ○避難指示メール発令 ○避難経路の確保	避難指示 ○緊急避難メール ○避難経路の確保 ○避難経路の確保 ○避難経路の確保	避難指示 ○緊急避難メール ○避難経路の確保 ○避難経路の確保
3	大雨警戒 河川警戒 河川警戒情報	高齢者等避難の要請 【緊急/おそれ多い】 ○高齢者等避難の要請 ○避難経路の確保 ○避難経路の確保	自分や家族の方 が避難する ○避難経路の確保 ○避難経路の確保 ○避難経路の確保	避難の要請・避難 ○避難経路の確保 ○避難経路の確保 ○避難経路の確保
2	大雨注意報 洪水注意報 注意報情報	防災行政無線で、住民 へ注意喚起の放送	○テレビ、ラジオ、携帯電話からの 注意喚起	
1	早期注意報	○テレビ、ラジオ、携帯電話からの 注意喚起	○テレビ、ラジオ、携帯電話からの 注意喚起	

○上川川水位情報
【下流水位情報】(河川水位情報) ○河川水位情報 (19:00) (河川水位情報) (19:00) (河川水位情報) (19:00)
○河川水位情報 (19:00) (河川水位情報) (19:00) (河川水位情報) (19:00)
○河川水位情報 (19:00) (河川水位情報) (19:00) (河川水位情報) (19:00)
○河川水位情報 (19:00) (河川水位情報) (19:00) (河川水位情報) (19:00)

講習会が「マイタイムライン」の作成につながった

【南陽市】防災スマホ教室の開催

■スマートフォンの初歩的な操作方法の教室を開講し、Twitter、LINE等を用いた災害時の情報収集を学び、地震や豪雨災害などの自然災害から命を守る、かつ、住民の避難行動を支援する取組みを実施した。

1. 開催日時

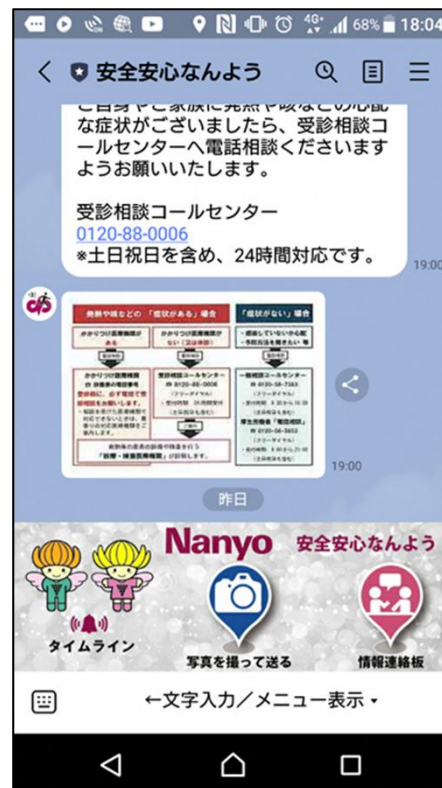
日時 令和4年1月27日(木)、2月9日(水)、
2月12日(土) ※各回、2時間程度
会場 市防災センター 外
対象者 スマートフォンをお持ちの方
受講者 各回20名ずつ

2. スマホ教室のねらい

- 地震や豪雨災害など、行政から出される様々な災害情報の入手手段を学ぶことにより、自分の命を守る避難行動を支援する。
- ・安全安心なんよう(LINE)、公式Twitterと繋がり、アプリの特性と使い方を学ぶ。
- ・Facebookの活用
- ・Yahoo! 防災速報アプリの配信情報
- ・避難所の状況アプリの利用方法を学ぶ



3. 状況写真



【南陽市】 水害対応総合訓練

■近年の大規模な水害発生を考慮し、“命を守る行動”を実践するとともに、水防活動の即応訓練を実施し、有事即応体制の確立と水防思想の普及啓蒙を図りました。

1. 開催日時・会場

日時 令和4年5月15日(日) 午前7時～11時30分
会場 南陽市役所、吉野川左岸新生橋付近 外
主催 南陽市・置賜広域行政事務組合南陽消防署
南陽市水防団
参加機関 南陽警察署、エフエム山形
参加者 約1,100名(避難訓練 約650名)

2. 実施内容

- 情報伝達、災害対策本部設置
避難所設置訓練(南陽市)
- 情報伝達、安否確認、避難誘導、
一時避難所開設・運営訓練(各地区・自主防災会)
- 交通規制、広報訓練(消防団)
- 水防訓練(消防署、水防団、地元地区・自主防災会)
- 水難救助訓練(南陽消防署救助隊)

※市民一斉避難訓練における住民の避難訓練は、感染症拡大防止の観点から、避難所までの避難行動を確認し、水防訓練は参加機関を縮小し実施。

3. 状況写真



山辺町 医療的ケア児 災害時避難訓練

医療的ケア児に係る豪雨災害時避難訓練を開催しました。

1. 開催日時・対象

- ・令和3年10月27日(水)
- ・対 象 医療的ケア児、家族、医師、ソーシャルワーカー、看護師、施設関係者、民生委員、山形県、村山保健所、山辺町

2. 避難訓練について

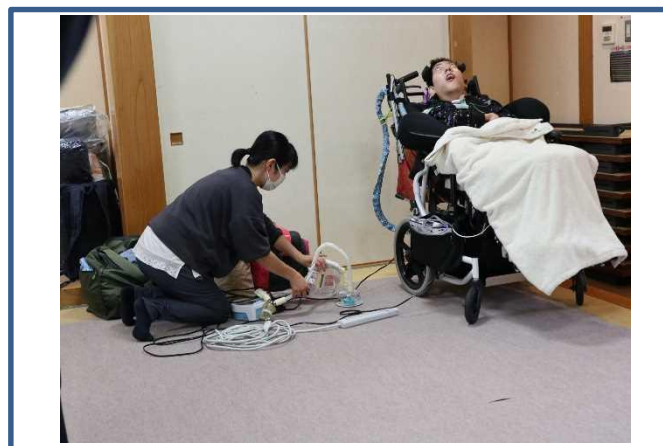
- ・個別避難計画の作成努力義務化に伴い、医療的ケア児の個別避難計画を策定しました。

計画に基づき、豪雨による高齢者等避難が発令されたと想定し、指定避難所への避難訓練と、停電発生を想定した非常用発電機の搬入訓練を行いました。

- ・避難訓練後は、家族と避難支援者でふりかえりを行い、個別避難計画を完成させました。

3. 状況写真

避難訓練の様子



戸別受信機の無償貸与

令和2年度から運用を開始した防災行政無線（同報系）と同じ放送内容を屋内でも聞くことができる戸別受信機について、令和3年度200台購入し、高齢者世帯に無償貸与を行った。

1. 対象者

- 75歳以上の単身世帯の方
- 対象世帯数：223世帯
- 貸与世帯：164世帯

2. 貸与方法

各地区公民館において操作方法など説明会を開催し貸与した。

3. 今後の対応

令和4年度以降も75歳以上のみの世帯や戸別受信機でしかプッシュ型情報配信を得ることができない世帯等へ貸与を予定している。

また、スマートフォンアプリ『@InfoCanal』への登録についても、利用促進していく。



屋内への情報伝達手段について

屋内にいる方への情報伝達手段として、戸別受信機の配布もしくはスマートフォンアプリ(@Info Canal)を整備しておりますので、緊急情報などの情報が発信された場合には戸別受信機とアプリの両方で皆さまに情報をお伝えします。

@InfoCanal
インフォ カナル

スマートフォンアプリは、iPhoneとAndroidの両方に対応しているため、お手持ちのスマートフォンにアプリをダウンロードしていただくようお願いいたします。App StoreもしくはGoogle Playにて「@Info Canal」と検索いただくか、右記のQRコードからダウンロードが可能です。

Available on the App Store

ANDROID

GET IT ON Google play

お願い

- 緊急放送は、深夜・早朝を問わず24時間いつでも放送されます。皆さまのご理解とご協力をお願いします。
- 防災行政無線は、天候や風向きによっては放送が聞こえにくい場合があります。放送に気が付いたら、テレビやラジオ、スマートフォンなどで防災情報の入手に努めてください。
- 放送を聞き逃した等の場合には、TEL.023-663-3585 に電話していただくと、放送内容が確認できます。

中山町 防災教育チャレンジプランの実施

令和3年度、減災Days(主宰:細谷真紀子氏)が、防災教育チャレンジプラン実行委員会の主催する採択事業に応募し、中山町における幼児からの切れ目ない防災教育を題材にしたプランが採択された。

1. 実施日時・対象

- ・令和3年10月～令和4年1月
- ・対 象 保育園(年長児)、小学校2校(5年生)

2. 防災教育について

- ・町内教育機関の協力のもと、減災Daysによる防災教育が実施された。
- ・小学校において、自分たちで作るハザードマップやデジタルマップ、段ボールジオラマを使用した授業を実施。
- ・保育園において、災害時に役立つ運動を行った。
- ・町、教育委員会、町内教育機関の代表者と減災Daysによる中山町防災教育連絡調整会議を令和4年6月2日に開催し、令和3年度の防災教育の取り組み状況の報告を行った。
- ・令和4年度も同チャレンジプランの採択を受け、減災Daysによる同様の防災教育を実施する予定である。

3. 状況写真

防災教育の様子



河北町における情報伝達手段の充実・強化の取り組み

- 町からの防災情報を伝達するための手段として、防災行政無線を繰り返し聞くことができるテレホンサービスを導入した。
- 避難情報を確実に届けるため、防災ラジオを配付した。

情報伝達における課題

- ◆ 防災行政無線の放送は、豪雨や強風など気象条件に影響され聞こえない。
- ◆ 屋外スピーカーによる放送が共鳴し聞き取りにくい。
- ◆ 住宅の騒音対策や気密性が向上し、防災行政無線による屋外放送が室内では聞こえにくい。

今後の進め方

- ◆ 災害時における情報発信システムの統合など、防災情報発信の効率化についての手法を検討する。
- ◆ 令和5年6月にテレホンサービスが終了するため、代替の方法を検討する。
- ◆ 防災ラジオの配付対象者の拡大を検討する。

情報伝達手段の多様化

- ◆ 防災行政無線、エリアメール、ホームページ、緊急連絡用無線、広報車による伝達方法に加え、防災無線の放送内容を聞くことができるテレホンサービス、登録制メールによる配信を追加した。
- ◆ 浸水想定区域内及び土砂災害警戒区域内で立退き避難が必要な地域に居住する住民に確実に避難情報を届けるため、高齢者世帯に防災ラジオを無償貸与した。



河北町 洪水ハザードマップの配布とタイムライン策定の取り組み

- 災害ハザードマップ(洪水)をL2対応に改訂し、全戸に配布した。
- 台風接近時に国・県、町・水防団、自主防災会・住民がとるべき行動を(タイムライン)を策定し、自主防災組織に普及・啓発した。

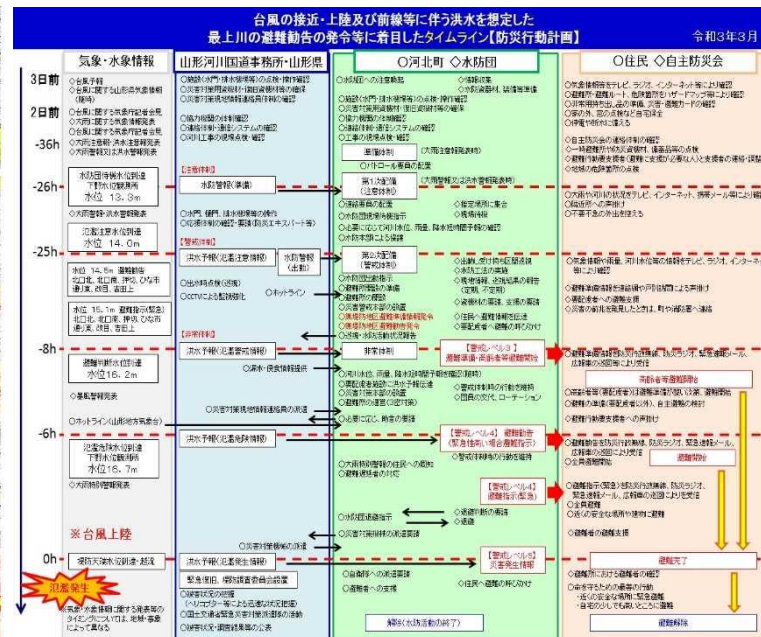
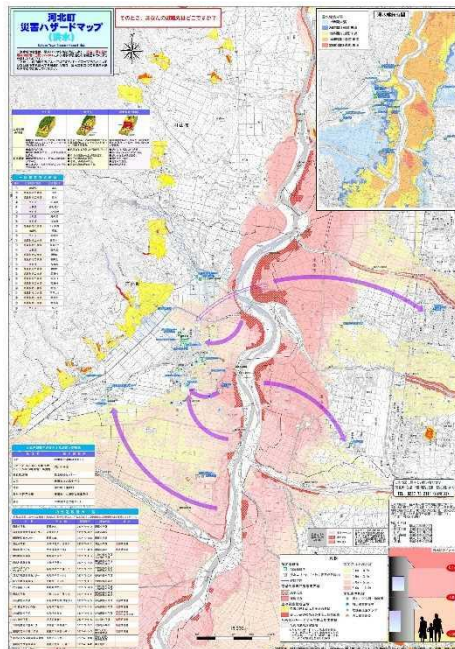
洪水ハザードマップの改定

令和元年度に見直したハザードマップを印刷し、町内全世帯に配布した。
【改定の内容】
 洪水浸水想定区域の見直し(L2対応)
 指定避難所等の見直し

タイムラインの策定

国・県から発令される情報や最上川の水位状況により、町・水防団、自主防災組織・住民がとるべき行動をまとめた。

今後の進め方



- ◆ 自主防災組織で行う出前講座で周知し、地域における災害の危険性の認識、避難場所、非常持出し品の備えなどを普及する。
- ◆ 高齢者の避難支援を徹底するため、包括支援センターと連携し、直接高齢者と接するケアマネージャーを対象にした説明会を実施する。
- ◆ 町内会版タイムラインの策定支援、マイタイムライン作成を普及・啓発する。
- ◆ タイムラインに沿った実践的な訓練を実施する。

河北町 実践的な水防訓練の実施

- 記録的な大雨により、最上川(下野水位観測所)の水位が上昇していく想定で、水位の状況に合わせ、各団体・機関がとるべき行動を訓練した。

実施月日・場所 等

- ◆ 令和3年5月23日(日)押切地区
- ◆ 参加人数202人(町、水防団、押切地区住民(自主防災会)、寒河江警察署、消防署河北分署、山形河川国道事務所)

① 災害対策本部設置・運営避難情報発令訓練(町)

② 広報・警戒、避難誘導・支援訓練(水防団・河北分署)

③ 避難訓練 (地区住民、押切町内会自主防災会、避難支援者)

避難行動要支援者及び地区住民に対する避難支援訓練、自主防災会による地区民の安否確認を含めた避難状況確認訓練。

④ 警戒、ゴムボート組立訓練(寒河江警察署)

⑤ マイタイムラン講習会・災害活動車両の展示(山形河川国道事務所)



令和2年7月豪雨をはじめ短時間高強度の降雨で道路が冠水することから、谷地工業団地の道路排水機能を強化するため、「緊急自然災害防止対策事業」を活用し、大雨時、既存樋管への排水を分水し、流末の負担を軽減する道路側溝改修事業を行う。

事業スケジュール	
○ R2~R3	第1工区 測量設計
○ R4. 6月中旬	第1工区 改修工事入札
○ R4. 9月下旬	第1工区 改修工事完了
○ R4年度中	第2工区 測量設計
○ R5年度	第2工区 改修工事

【改修イメージ】

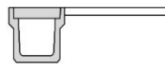
現在の側溝勾配を逆向きに改修し、豪雨時における下流側の浸水低減を図ります。



道路

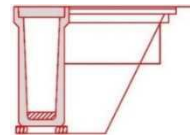
【現況断面】

道路用側溝
幅 50 cm × 深さ 50 cm



【改修断面】

勾配調整側溝
幅 50 cm × 深さ 50 ~ 140 cm



【事業の効果】

毎分16t(理論値)の水量低減が見込まれる。



西川町 防災の講習会

町の防災の取り組みについて紹介し、災害への備えと災害発生時の行動等について講習会を開催しました。

1. 開催日時・対象

- ・令和3年9月8日(水)
対象 西川小児童
- ・令和3年10月29日(金)
対象 西川中生徒

2. 講習会について

- ・令和2年7月豪雨で発生した災害を基に、最近の傾向について話し合いました。
- ・防災ハザードマップの活用方法について紹介し、災害への備えや、災害発生時の行動について話し合いました。
- ・災害発生時の緊急避難ルートや避難場所について各家庭での話し合いを呼びかけました。
- ・地域自主防災組織について知り、訓練等への参加を呼びかけました。

3. 講習会資料

4. ハザードマップとは

言い換えると、「被害予測地図」その地域に予想される災害や、被害範囲を表した地図のこと。

- ▶ 特徴として・・・
 - ・土砂崩れや洪水の危険がある場所が色毎に示されている
 - ・災害時の避難所や避難経路が掲載
 - ・災害情報確認のHPの紹介
 - ・非常時持出品、避難所の一覧など



普段から読んでおくことで、災害時に役立つ！

5. ハザードマップの見方・活用方法

- ▶ ①地図上で**自宅の位置**を確認
- ▶ ②**土砂災害警戒区域**の場所を確認
- ▶ ③周辺の**避難施設**を確認しよう
- ▶ ④避難場所までの**避難ルート**を想定しよう
- ▶ ⑤家の中の見やすい所に**置いておこう**



朝日町 防災講習会

朝日町区長会と連携し、自主防災組織の中心となる区長を対象とした防災講習会を開催し、防災力の強化を図りました。

1. 開催日時・対象

- ・令和3年11月9日(火)
- ・対 象 町内全地区区長

2. 講習会について

・近年の災害発生状況や、災害時の避難や自主防災組織の取るべき行動について計画について講習会を開催しました。また、緊急時の防災行政無線の活用についても説明を行い、町内全地区における防災力強化を図りました。

3. 状況写真

講習会の様子



大江町の水防等対策について

大江町では水防等対策についてハザードマップの講演会等の開催やその他必要な活動を行っています。

1. 開催日時・対象

①令和3年9月13日(月)

- ・対 象 さがえ西村山農業協同組合女性部
- ・内 容 「大江町ハザードマップ講習会」

②令和3年11月20日(土)21日(日)

- ・対 象 総務課危機管理係職員
- ・内 容 「日本防災士機構防災士資格取得」

2. 講習会について

①大江町のハザードマップについて、講演会を実施した。

講師は総務課危機管理係の職員

②県が主催する日本防災士機構養成講座を総務課危

機管理係職員が受講し資格を取得した。今後の活動に活用できるように今後も受講予定している。

3. 状況写真

【講習会等の様子】



大石田町 令和4年度取組

避難体制の強化

1. 実施内容

- 各家庭毎の避難計画が基本という観点から、自主防災組織による研修会を7月3日(日)に開催。(40名参加)
- 昨年度末配付した防災マップについて、住民の方の理解を深めるため、町職員が講師として説明した。
- また住民の方(防災士)が講師となり、マイタイムラインの作成の講習会を実施した。

The image displays two examples of disaster preparedness forms. The left form, titled "わが家の避難行動計画" (My Family's Disaster Evacuation Action Plan), is a "マイ・タイムライン" (My Timeline) form. It includes a header with the slogan "家族でつくる! わが家の避難行動計画" and a section for "マイ・タイムラインとは" (What is My Timeline?). Below this is a "わらわら逃げっぺ" (Warawara Nigeppe) section with a timeline from 1 to 5, detailing actions for "大雨に関する取組" (Large rain response), "河川の氾濫に関する取組" (River flooding response), and "土砂災害に関する取組" (Landslide response). It also features a "避難指示" (Evacuation instruction) section with a flowchart for "避難開始 (全員)" (Evacuation start (all)) and "避難開始 (家族)" (Evacuation start (family)). The right form, titled "わらわら逃げっぺ 家の避難計画" (Warawara Nigeppe Family Disaster Evacuation Plan), is a more detailed plan. It includes a "避難情報" (Disaster information) section, a "避難行動" (Evacuation action) section with a grid for "私と家族" (Myself and family) and "地域" (Community), and a "避難する場所" (Evacuation location) section. It also includes a "避難開始時間" (Evacuation start time) section and a "避難開始時間" (Evacuation start time) section. Both forms include contact information for the town and QR codes for more information.

↑ 防災マップに収録しているマイタイムラインのページ

新庄市と金山町の連携した広域避難について

上台川氾濫時における地区住民避難先の視察を実施しました。

1. 開催日時・対象

- ・令和4年7月2日(土) 午前9時から
- ・対 象 金山町上台地区住民
(区長、消防団、老人クラブなど18名)

2. 大規模水害時等における覚書について(R3. 8締結)

- ・上台地区と町中心部の間に流れる上台川が、大規模豪雨などにより増水し、上台地区住民が町中心部への避難が困難であると判断される場合、昭和活性化センター(新庄市)へ避難が可能となった。

3. 実施状況

- ・避難所開設から避難の流れ、位置情報などを説明した。
- ・新庄市の協力のもと、避難所までの経路、避難所の設備などを実際に確認した。

3. 状況写真

視察の様子



最上町 取り組み

ハザードマップの更新

- H30.3作成の最上町ハザードマップを令和4年度中に更新し、全戸配布。最新の情報で防災訓練等に活用。

赤倉温泉地区の避難通路整備

- 橋の整備については、県事業として令和4年9月の完成を目指している。橋の前後の避難通路の整備は町の事業となっており、令和4年度末までに、源泉に影響が出ないように注意しながら完成を目指す。

防災行政無線のデジタル化

- R2年度デジタル化により携帯電話での情報取得が可能となったが、高齢者等への伝達が課題。防災情報を迅速かつ容易に取得できる環境づくりについて検討していく。

舟形町 消防団による水防訓練

最上川沿いに位置する舟形町堀内字実栗屋地区において、舟形町消防団による水防訓練(積土のう訓練)が実施された。

1. 開催日時・対象

- ・令和4年7月3日(日)
- ・実施主体・・・舟形町消防団

2. 事業内容について

・会場となった実栗屋地区は最上川沿いに位置しており、大雨や最上川の増水により河川の氾らん等が発生すれば大きな被害が予測される地域です。そこで、この被害を軽減するため、舟形町消防団による水防訓練(積土のう訓練)が、地元町内会の住民が見守る中実施された。このことにより、消防団の技能向上が図られ、また、地元住民の方に水災に対する強い危機意識を持っていただくことができた。



3. 状況写真



真室川町の取組み

令和4年度の取組み。①防災訓練の実施、②防災行政無線戸別受信機の設置、③防災に関する出前講座の実施。

1. 実施予定内容

①真室川町防災訓練

- ・令和4年9月18日(日)
- ・内容は、様々な大規模災害を想定し実施するうち水防に係る訓練

②防災行政無線戸別受信機の設置

- ・令和4年度事業

③水防に関する出前講座の実施

- ・令和4年度7月～9月
- ・町内学校及び地区(自主防災組織)

鮭川村 可搬式排水ポンプ操作講習会

降雨期に備え、水防訓練の一環として可搬式排水ポンプの操作講習会を開催しました。

1. 開催日時・対象

- ・令和3年5月30日(日) 午前8時より正午
- ・場 所 鮭川村中央公民館隣り多目的グラウンド駐車場
- ・対 象 鮭川村消防団第1・第2分団団員52名

2. 講習会について

- ・ポンプ製作所の職員3名を講師に、降雨期に備え、水防訓練として可搬式排水ポンプの操作講習会を実施した。
- 講習会後は、消防団員各々が習得のため操作訓練に努めた。

3. 状況写真

講習会の様子



高畠町水防訓練

水防訓練を実施しました。

1. 開催日時・対象

- ・令和4年6月26日(日)
- ・水防団、二井宿地区の自主防災組織、二井宿小学校児童及び保護者

2. 水防訓練について

- ・小学校のグラウンドを会場として、水防訓練を実施しました。毎年、小学校を巡回して実施することで、水防団員の水防技術の習得はもとより、地域における水害への備えの普及啓蒙を目的としています。
- ・訓練で使用した土嚢は、そのまま小学校グラウンドにストックし、水害に備えています。

3. 状況写真



R3及びR4の取組状況【川西町】

総合防災訓練

■川西町地域防災計画に基づき、集中豪雨や大雨が増加する時期に備え、水害への警戒、避難行動確認を目的として実施した。

1. 開催日時・会場

開催日時: 令和3年8月29日(日)
午前8時00分～11時
会場: 川西町大字大舟地内
東沢地区交流センター周辺
参加者: 約100名

2. 状況写真

対策本部と自主防災組織連携
(Web会議)



水防工法講習会

■梅雨の季節に想定される水害に備えて実施した。消防団幹部や新入団員をはじめ、消防署員、町職員等が参加。

1. 開催日時・会場

開催日時: 令和4年6月26日(日)
午前9時00分～11時
会場: 川西町大字中小松地内
水防倉庫周辺
参加者: 約55名

2. 状況写真

土のう作り



改良積み土のう工法



土のう900個の備蓄



小国町の減災に係る取組み

1. 実施内容

■ 総合防災訓練の実施

令和2年10月4日、北部地区において実施。台風接近に伴う大雨による土砂災害の危険を想定し、防災ラジオ等を活用した情報伝達訓練、高齢者等への避難支援を併せた避難訓練、感染症対策を考慮した避難所設営訓練等を行った。令和3年度については中止。

■ 防災行政通信システムの運用

屋外スピーカー、防災ラジオ(全戸配布)及びエリアメールにより、情報伝達手段を確保。

■ ハザードマップの改訂

想定最大規模の降雨を前提とする洪水浸水想定区域等を反映させた新たなハザードマップの作成。(令和3年7月に各世帯に配布し、地元説明会を開催)

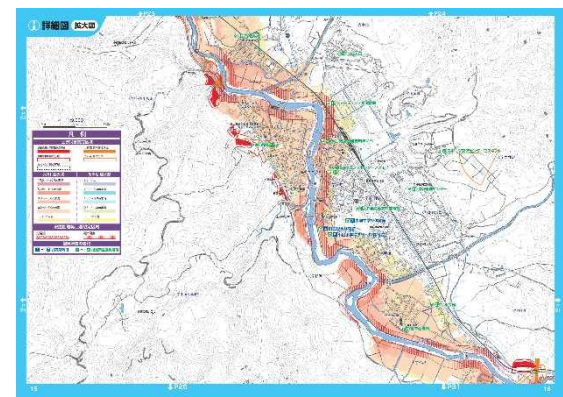
2. 状況写真



総合防災訓練の実施



全戸配布の防災ラジオ



ハザードマップの改訂

R03の取組状況とR04の取組予定【白鷹町】

R03 白鷹町の取組状況

■ハード対策

- 防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布

⇒情報伝達方法の拡充（情報配信アプリの導入、戸別受信機の配付）

- 水防活動を支援するための水防資材等の配備 ⇒資機材の備蓄、点検、補充等を随時実施

■ソフト対策

- 広域避難計画及び広域避難を考慮したハザードマップの策定周知

⇒L2対応版策定配布済み(H29)

- より実践的な避難訓練の実施及び要配慮者利用施設の避難計画の作成

⇒要配慮者利用施設の避難計画作成の推進

- 首長等も参加した実践的な訓練 ⇒総合防災訓練（中止）

- 防災出前講座の実施 ⇒避難所運営、地区防災計画作成の推進

R04 白鷹町の取組予定

■ハード対策

- 防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布

⇒情報伝達方法の拡充（戸別受信機の配付、一斉配信手段の検討）

- 水防活動を支援するための水防資材等の配備 ⇒資機材の備蓄、点検、補充等を随時実施

■ソフト対策

- 広域避難計画及び広域避難を考慮したハザードマップの策定周知

⇒L2対応版策定配布済み(H29)、広域避難のあり方等に関する情報収集・研究

- より実践的な避難訓練の実施及び要配慮者利用施設の避難計画の作成

⇒個別避難計画の作成の推進

- 首長等も参加した実践的な訓練 ⇒令和4年度洪水対応演習参加(5/13)

- 関係機関が連携した実働水防訓練の実施 ⇒水防訓練を含む総合防災訓練を実施(10/24)

飯豊町 防災研修会の開催

自主防災組織の代表者や町民の方に向けて、防災意識の向上を図るため、講習会を開催しました。

1. 開催日時・対象

- ・開催日時 令和3年12月11日(土)9:30～
- ・対 象 自主防災組織代表者・一般町民
- ・会 場 めざみの里観光物産館コンベンションホール

2. 講習会について

山形県自主防災アドバイザーをお招きし、町民の方に向けて防災研修会を開催しました。

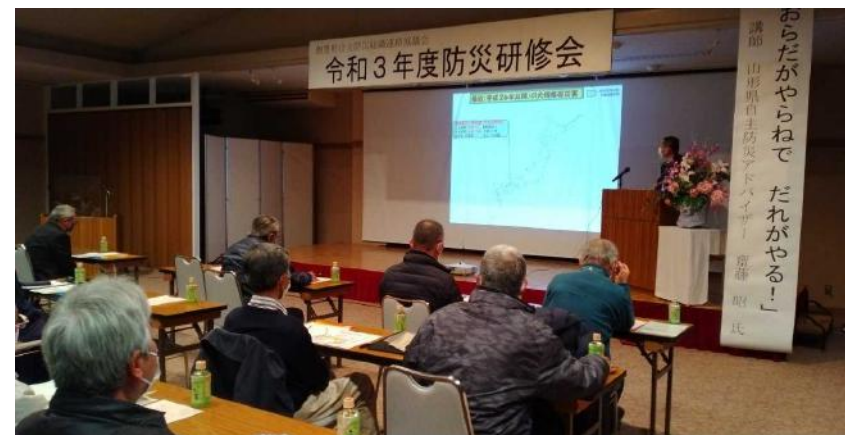
町内で起こり得る自然災害を例にとりながら、「おらだの命は おらだで守る」「おらだの地区は おらだで守る」という考えのもと、日頃の災害に備えた準備が大切とご講演いただきました。

また、各自主防災組織や地域ごとに防災マップ作成に活用できるよう地図を配布しました。

- ・演題 『おらだがやらねでだれがやる』
- ・講師 山形県自主防災アドバイザー 齋藤 昭氏

3. 状況写真

講習会の様子



R3.7月 町内2か所に土嚢ステーションを整備しました。

➤ 一般町民向けの土嚢ステーションを町内2か所に設置しました。

《実施機関：庄内町》



設置個所

余目地域：上朝丸防災備蓄庫 脇
立川地域：立川総合支所 裏



◆ 一般町民の方も、自由に利用できます

遊佐町の水防技術講習会

令和4年5月29日の東北技術水防大会に向けて、水防技術講習会を実施しました。

1. 開催日時・対象

- ・令和4年3月5日から令和4年5月15日まで
毎週1回 合計12回の訓練を実施
- ・対 象 ……消防団員(水防団員)

2. 講習会について

- ・河川の氾濫、堤防の決壊を想定して、月の輪工法(土嚢積み)、シート張り工法の訓練を実施し、水防の知識と技術を身に着けました。
- ・講習会後は、訓練や大会に参加した団員から全団員に水防の技術を継承し、災害時には技術を生かせるように訓練を継続していくこととしました。

3. 状況写真

講習会・大会の様子

